

【Insectopia (インセクトピア)】とは： insect (虫) と utopia (理想郷) を掛け合わせた造語『蟲たちを含む、地球上に生きる全ての仲間が快適に生きることができる世界』を創るため、SHELLグループがお届けする情報発信ニュースレター。



世界の模範となる都市衛生とは ～持続可能な都市の創造～

近年、都市の衛生環境が生物や自然へ与える影響について取りざたされています。都市の衛生問題は、都市・街・建物の設計、廃棄物管理、大気汚染、上下水道管理、感染症管理、医療体制など多岐にわたり幅広く都市計画を考える必要があります。今回は、世界の模範となりえる都市衛生の実例を紹介します。

世界の模範となる都市衛生とは

現在、世界で評価されている都市はいずれも、健康と環境を重視し、高水準な衛生設備・公衆衛生政策を備えています。評価機関の代表例は、世界保健機構 (WHO) やユネスコ (UNESCO) で、持続可能な発展と人の健康を守り両立した典範的な都市が世界の模範となる衛生都市として選ばれています。

シンガポールの実態と日本の比較

都市衛生において高い水準を維持し、成功している国のひとつがシンガポールです。シンガポールの衛生管理の成功は、厳格な政府の取り組みと効果的な施策に支えられています。そのひとつが、「Clean and Green Singapore」と呼ばれるキャンペーンで、市民の環境への意識を高め、清潔な環境を保つための取り組みとなっています。また国として、厳罰を伴う罰則制度も設けられており、公共の場所が清潔に保たれています。一方、日本は国家的なキャンペーンや罰則制度は目立たず、よりコミュニティや個人の良識に依存する形となっています。これは日本の国民性、社会性などが影響しています。両国の衛生管理の違いは、文化や社会の特徴に裏打ちされた施策の違いから生じているのです。シンガポールは厳格な規制と積極的な市民参加によって衛生環境を維持しており、日本は個人の意識と協力を重視しつつ、状況に合わせて柔軟に対策を展開しているといえます。

シンガポールの罰金制度

シンガポールが綺麗な街並みを維持できている要因には罰金制度が深く関わっています。多民族国家であるシンガポ

ールの衛生管理をを効果的に統率するため生まれたのが罰金制度です。罰金制度の対象規律の一例として、[ゴミのポイ捨て]、[スモキングエリア以外での喫煙]、[タンやつばを吐く]、[トイレでの水の流し忘れ]があります。日本でこれらは、モラルに反する行為になりますがペナルティはありません。しかしシンガポールでは罰金対象となります。その他、興味深いものとして[蚊の発生禁止]があります。国家環境庁 (NEA) 職員が公共の場所や住宅地域、蚊の繁殖源となる水たまりなどを定期的に監視し、駆除活動を実施しています。必要に応じて蚊の発生を抑制するための薬剤を使用した駆除も行われており、現在は環境保護や健康への影響を考慮した適切な使用が課題となっています。

持続可能な都市の創造に向けて

一言で都市衛生といっても、それを実現するためには、それぞれの国や地域の文化などの背景を理解する必要があります。シェルグループでは世界の先進事例を学びつつ、それぞれの地域やコミュニティの背景を理解しながら持続可能な都市の創造を目指していきたいと考えています。



写真：シンガポールの街中に設置されている、視覚的に分かり易いゴミ箱



蚊が媒介する感染症リスク

蚊が媒介する感染症の症例とリスクについて

蚊は、多くの感染症を媒介する可能性がある害虫の一つです。今回は、代表的な3つの蚊媒介感染症である「マラリア」、「デング熱」、「ジカウイルス感染症」について紹介します。

マラリアは、プラスモディウムという寄生虫に感染した蚊によって媒介される感染症です。高熱、寒気、頭痛、関節痛などが症状として現れます。重症な場合、臓器障害や死に至ることがあります。

デング熱は、デングウイルスに感染した蚊によって媒介される感染症です。発熱、筋肉痛、関節痛、発疹などの軽い風邪のような症状が現れます。一般的には軽症で自然治癒しますが、一部の感染者では重症化する可能性があり、デング出血熱やデングショック症候群として知られる症状を引き起こすことがあります。これらの状態は、血小板数の低下や血管の漏れなどによって最悪の場合、命に危険を及ぼすことがあります。

ジカウイルス感染症は、ジカウイルスに感染した蚊によって媒介される感染症です。多くの場合、無症状または発熱、発疹、筋肉痛、関節痛などの軽い風邪のような症状が現れます。しかし、妊婦が感染すると胎児に影響を及ぼす可能性があり、先天性の神経系の障害や顔面の奇形などの問題を引き起こすことがあります。

蚊は年間72万5千人もの命を奪っており、人間47万5千人、蛇の5万人を大幅に上回り、最も多く人間の命を奪う生きものとなっています。（世界保健機構2014年発表）



私たち個人ができる蚊の対策

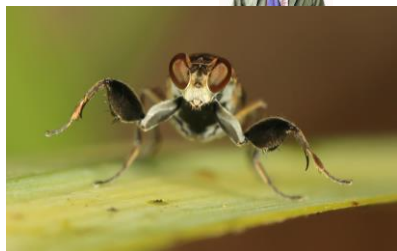
感染症が確認できる国や地域を訪れる際は、情報収集をし、必要な場合は予防接種を行い、蚊の活動が活発な時間帯（日没～夜間）の外出時は特に十分な対策をしてください。個人のできる対策としては、虫除け剤の活用、そして肌が露出しないような衣服の着用などがあります。また日常生活においては、成虫から身を守るだけでなく、繁殖を防ぐことが重要です。蚊は水たまりや、水の中で産卵します。水たまりを作る原因になりやすいのが、ゴミなどの廃棄物です。花瓶や鉢植えの水たまりに卵を産むこともあります。周囲の環境に気を配り、水たまりを適切に管理する事で、蚊の増殖は防ぐことができます。

シェルグループではより根本的な対策や予防に注力し、住みやすい安全な街づくり、地域づくりに貢献していきます。

今月のInsect



写真/解説
中峰 空
8thCAL技術顧問
箕面公園昆虫館館長



ミナミカマバエ

(南鎌蠅)

ハエ目ミギワバエ科

学名: *Ochthera circularis*

カマキリのような前脚を持つ体長4mmほどの小さなハエで、科名のミギワ（水際）の通り、水辺の泥や草の上などで見られる。鎌状の捕獲脚で小さな昆虫などを捕食する。前脚だけでなく、顔も逆三角形でカマキリに似ているのも面白い。

Information

● 害蟲展 X(Twitter)更新中！

害蟲展の様々な情報や、蟲トピックスなど、最新の情報を随時発信中。この時期、展示会に繋がる情報も多くツイートしています！ アカウントフォローして最新情報をGet！▶▶▶



● Pick up 展示会情報

害蟲展season4（※弊社主催）

・MATERIO base（東京）※東京都中央区東日本橋3-11-2
会期：2023年9月2日(土)～9月15日(金)

・箕面公園昆虫館（大阪）※大阪府箕面市箕面公園1-18
会期：2023年9月20日(水)～9月25日(月)

・白馬村 Re:Public（長野）※長野県北安曇郡白馬村北城7078
会期：9月30日(土)～10月9日(祝)



↑
害蟲展HPは
こちら！

Insectopia インセクトピアの配信登録はこちらから！

QRコードを読み取り後、登録フォームよりご登録ください。ニュースリリースや採用情報、イベントなどの最新情報を配信中です。

